



「ジェイ・オー」第4号 2013.7.20 発行
 発行者：株式会社協進印刷
 編集者：JO 編集委員長 石井健太郎

お母さんにも、企業にも やさしい保育園をつくってみたい

株式会社フェアリーランド代表取締役 菊地加奈子さん

専門主婦から心機一転、社会保険労務士の資格を取り個人事務所を設立。社労士として企業の労務管理に携わる傍ら、自らの子育て経験から「ママの声にきめ細かく応える保育園を」と、あえて認可をとらない認可外保育園「フェアリーランド」を開園。社労士として、園長として、そして4児の母として、大活躍の忙しい日々を送っている。

<http://www.fairy-land-2012.jp/>

江森：専門主婦から社労士になろうというだけでも大変な決断だと思えますが、保育園まで始めてしまうというには驚きました。

菊地：認可保育所は保護者が月に16日以上、1日4時間以上働いていることが入所の条件になっているのですが、私が社労士事務所を始めた当時、その条件を満たすことができずに、なかなか保育園に入れてもらえませんでした。

認可外の保育所は保育料が高額なところが多くて、当時三人の子供を預けるのに月に二十万円以上もかかってしまっていました。でもそうでもしないと働くことができませんでした。その経験があったので社労士の仕事に軌道に乗ってきたときに、現実的なお母さんたちの声にきめ細かく応えることができる保育園をやってみようと思えました。**江森**：働き方ということも含め、女性の社

会への関わり方が多様化しているという現状に、制度がついていっていないということでしょうか。

菊地：制度の古さというのは否めないと思います。認可保育所はほぼ全額の公的支援が受けられるのに対して、私たちのような認可外保育所は、行政からの助成金のようなものはまったくいただけません。

そうなるとう然認可保育所が多くなるのですが、認可保育所は国が定めた通りの保育しかできないので、融通のきかない保育園ばかりになっているというのが実情です。**江森**：いま横浜では林市長キモ入りの「横浜保育室」が注目されていますが。

菊地：「フェアリーランド」は横浜市が定める基準はクリアしていますが、横浜保育室としての認定は受けていません。というのも横浜保育室も入所条件は認可保育所と同じで、言ってみれば暫定的な認可保育所の

ようなものなので、認定を受ければ制度に縛られて柔軟な保育ができなくなってしまうからです。今後、横浜保育室も順次認可保育所に移行していくと考えられますので、お母さんたちの多様なニーズに応える制度になっているかという点、疑問が残るところではあります。

江森：横浜市は「待機児童がゼロになった」と胸を張っていますが、数字のマジックだという批判もあります。

菊地：お母さんたちのニーズに応えた上での待機児童ゼロかといえば、数字の操作とかわれてもしかたない面はあると思います。特定の園を指定して順番を待っている人は待機児童にはカウントされませんが、実際この近くの園で二十人待ちというところもあります。そもそも今は専門主婦だけでなく、これから働こうと思っているお母さんとその子供は統計の対象にもなっていないわけ

ですから、潜在的な待機児童はかなりいるのではないかと思います。これから働こうと思っているお母さんたちにとって、保育園が高い壁になっているのは確かです。

江森：なるほど、そこで菊地さんが立ち上がったわけですね。お母さんからの評判はいかがですか。

菊地：お母さんたちはすごく満足してくださっています。仕事を探すために子供を預けに来られた方が、無事に仕事も決まって働いているという方もいますし、育児に悩んで育児ノイローゼ気味だったお母さんが、子供を預けることによって自分の時間ができて気持ちが楽になったと言ってくれたり、いろいろな声をいただいています。

江森：子供を預ける理由は、仕事だけじゃないということですね。

菊地：そうですね、このあたり（横浜市都筑区）は比較的裕福な家庭が多いというこ



ともあってか、必ずしも仕事のためとは限らないようです。しかし一方で地域によっては、シングルマザーが多くて小さい子供がいても夜勤をやりたいたいから、二十四時間体制の保育所が求められていたり、本当に保育のニーズというのは多様なんですね。

でも認可保育所は、お母さんがどんな仕事をしたいかが、子供が少しでも熱を出したら一時間以内に迎えにいかなければならぬとか、こちらの事情をほとんど汲み取っていただけない場合が多くて、私もそのことでは本当に困りました。ですから、今はできるだけお母さんの仕事、つまりお母さんが勤めている会社の事情にも配慮できるサービスを心掛けています。

江森：保育の世界にも既得権の弊害があるようです。保育園を始めてみて、始める前とイメージが違ったとか、大変なことは

ありますか。

菊地：私も子育て世代の母親なので、理解はしているつもりだったのですが、実際に子育てをしているお母さんたちを雇用するのは大変だなと思っています(笑)。

同じ母親でも、社会的な立場や家庭環境の違いなどから、仕事に対する意識が異なり、時にはぶつかることもありますし、理解しあえなくて仕事が続かなかった方もいます。お母さんたちを雇用するというのは相当な覚悟が必要だなと感じています。

江森：労務管理という意味では、専門分野の社労士のノウハウが活かされますね。

菊地：そうですね。社労士と保育園で一見何の関係もないようですが、実は子育て世代のお母さんを雇用するという意味においては、保育園での労務管理に社労士の知識はすごく役に立ちます。

女性が活躍できる社会を作ることとは、 産業界にとつてのイノベーションなのです。

江森：本当に女性が活躍できる社会を創っていくことは、日本の産業界にとつてはあらゆる種のイノベーションだと私は思っているのですが、そのために企業がすることはどんなことがありますか。

菊地：それはなんといっても事業所内保育を進めることだと思います。企業のニーズにあわせて保育のスタイルをカスタマイズしていかないと、お母さんにとつても働きづらいし、企業にとつてもお母さんたちの存在が重荷になってしまう。保育園の都合ではなく、企業にあわせた保育所を作っていくことで、お母さんたちが大きな戦力と

も相応の負担をしてもらって、私たちのような保育所の運営会社に運営を委託していただければ、それほど難しいことではありません。

それでも実際に赤字がでないように運営していくためには、色々と工夫も必要だと思いますので、たとえば近所のお母さんたちやおばあちゃん世代の人たちにボランティアでお手伝いしていただくような仕組みを考えていくことも、今後必要になってくるかなと思っています。

江森：晩婚化で子育てと介護が同時にやってくるなんていうことも珍しくなくなってきましたね。

菊地：私の知り合いにも、今まさに子育てと介護を両方やっているという人がいます。そういう時代だからこそ、私は学生さんに、学生のうちから自分が子育てをしなから働くというイメージをもっと持つて欲しいと思っています。

どうしても若いうちは自分が働くということしか考えていないのですが、結婚して子供を産んで、仕事との両立が苦しくなるのが必ずあるので、学生のうちから将来のライフプランを見据えた上で、じゃあ、どんな仕事に就いたらいいのかということを考えてみるのもいいのかなと。主婦と学生



の対話の場づくりなんかもやってみてですね。

江森：いいですね。ウチにもインターンの女子学生が良く来るので、今度こちらに連れてきますよ(笑)。まさにやりたいこと盛りだくさんといった感じですが、今後はどのような計画ですか。

菊地：まずはここで保育所運営のノウハウを確立して、先ほどお話ししたような事業所内保育所や、地域のニーズにあった保育所を作り上げていきたいなと思っています。企業とお母さんの立場に立った保育を実現していきたいですね。お母さんの中にも、子育て中は子育てに重点を置いて、仕事は少し控えめにしたいという人もいれば、妊娠中や子育て中であってもバリバリ仕事をやりたいという人もいますので、誰でも一律に扱うのではなく、企業側もことんやりたい人には、あまり気を使わずにやることなど、通常通りにやらせてあげていいと思います。

また、すでに頑張っている女性もたくさんいるのですが、現実の壁を目の当たりにして諦めてしまっている女性もたくさんいると思うので、お母さん向けの講座なども企画していきたいなと思っています。

江森：今日のお話を伺って、企業と保育が結びつくことで、女性の働く環境はもっと変わっていくのではないかと感じました。お母さんと企業と保育の懸け橋として、これから大いに活躍ください。



日本初の業種別CSR認定制度

印刷業界でスタート 第1期40社を認定

企業価値を高め社会から必要とされる会社・業界にしようーそんな志を掲げて全日本印刷工業組合連合会（全印工連）が業界団体としては日本初となる「CSR認定制度」をスタートさせ、六月二十五日外部有識者からなる認定委員会において、第一期の四十社が認定されました。CSRというとボランティア、社会貢献というイメージが強いと思いますが、中小企業ではコンプライアンス（法令遵守）、環境保護、情報セキュリティなど、文字通り社会的責任のある

取り組みがどうしても遅れがちであるため、このような制度を作って会員企業に取り組みへのきっかけとしてもらうことを目的としています。

同制度は全印工連が横浜市大CSRセンターの協力を得て昨年から制度設計をスタート。認定はワンスター、ツースター、スリースターの3ランクに分けられますが、飛び級はできないこと



認定委員会当日に開催されたプレス発表

定の取り組みをクリアしなければならぬので、ワンスターといえ日頃からある程度の取

になっているので、まずは全社がワンスター認定を取得しました。ワンスターは8つのCSR領域におけるそれぞれの取り組みをポイント換算して、必要とされるポイントを取得することによって認定されます。8つの領域とは、コンプライアンス、品質・環境、情報セキュリティ、雇用・労働安全、財務・業績、社会貢献・地域志向、情報開示・コミュニケーションのこと。これらすべての領域にわたって一

り組みはしていないと認定を受けるのは難しいといえるでしょう。全印工連では、今後もお客様や地域のみならずから信頼される印刷業界を目指して、自ら襟を正してCSR推進に取り組みでいくということです。

CSRとは…

Corporate Social Responsibilityの頭文字をとったもので、「企業の社会的責任」と訳される。欧米では第一次世界大戦後の女性の労働条件改善を通じてその概念が生まれたと言われている。日本においては公害問題が発端になった。社会からの期待を裏切ることなく、企業活動を継続していくという考え方。

モノづくりの ある街

第二回 「武蔵新城」文・写真 竹見正一

このコーナーでは、印刷屋営業という建前で行き交わっている竹見が、心地良いと感じる町と人、そして今も力強く輝くモノづくりの現場を紹介していきたいと思っております。つたない話ではございますが、どうぞお付き合いください。

酷暑と呼ばれて久しい、日本の夏がやってきました。ふらふらと潮の引いた磯に出かけ、ビールなんか飲んでいるといくら暑くてもウキウキするので、重い鞆を引つさげビールの合間を急ぎ足で歩き、アスファルトからの反射熱を浴び、室外機の不快風に煽られると、遠くの空を見上げ、うわ、はやくビールがのみたい！ってなるのです。

今回訪れる町は武蔵新城。立川と

川崎を縦に結ぶ黄色い電車が走る町です。武蔵小杉から武蔵中原、武蔵新城、武蔵溝ノ口と、ずっと武蔵冠なので、本などに没頭していると不意に乗り過したかもって不安がよ

じめま。商店街を抜けると住宅街が続く、十分ほどで府中街道にでます。府中街道を北上、第三京浜にぶつかると、日本プロセスさんがあります。

仲間がいるということに、感謝せずにはいられません。ありがとうございます！

ので、クライアントの無茶だなんて思える要求が楽しくて仕方ありません。だって、世の中に二つとない美しいものを作れるのですから。



新城あいまーる 本屋の賑わいは葉がおすすめ

ここは、印刷の工程の中で製版を専門に歩んでこられた会社として、スキャニングやデータ変換、色補正などの技術に特化しておられます。ほんの数年前までオフセット印刷には、「製版フィルム」が不可欠でした。

現在よりもはるかに時間と費用がかかる色校正でしたので、それにとりもなう人的技術も必要最低条件でした。そのようなCTP以前の技術者が、今ではツールをナイフからPCに変え、凛として作業されている姿を拝見すると、いつも清々しい気分になり、私は襟を正しています。旧態から脱出できない企業が多い中、外に出ようとしている懸命で力強い

で早々に退却し、時計を見ると十七時。この時期はまだまだ日が高く少し得した気分になります。さて、自由が丘での打ち合わせまで二時間あるがどうしよう。とりあえず分岐の小杉まで戻って考えよう。とりあえず次の目的、割烹にビールと言ってみよう。今日も、素敵な日暮れを迎えられそう。感謝。



割烹こすぎ。とあるイベントの打ち合わせ基地です。安くて綺麗

全日本印刷工業組合連合会 CSR認定取得!

3ページの記事でも紹介した日本初の業種別CSR認定制度である「全日本印刷工業組合連合会CSR認定」第一期40社のうちの1社として認定



を受けることができました。CSR認定は自社の苦手なところが確認でき、弊社では「会社の健康診断」として位置づけています。

今回の健康診断で明らかになった反省点は、①環境で新しい取り組みができていない。②雇用関係の規程類の整備が遅れている。③お

グリーンプリンティング 更新認定取得

客様窓口などの整備ができていない。が主なところ。今後の取り組みに活かしていきたいと思っております。

平成十九年に取得した日本印刷産業連合会のグリーンプリンティング(GP)認定制度の3回目となる更新審査を無事に終えました。GPは行政機関の環境調達基準であるグリーン購入法にも採用されている権威ある認定制度。近年の特徴として温暖化対策だけでなく、近隣との友好的な関係の構築など、幅広い意味での「環境」への取り組みが求められていると感じました。CSRの中でも重要な項目のひとつとして努力してまいります。

誠心料理 浜源

大口の魅力を紹介していく「大口自慢」四回目の登場は、寿司の名店「浜源」さんです。来年で創業三十周年を迎える老舗。一番の売りは、なんとと言っても新鮮なネタです。

特にマグロは冷凍していない、生のマグロを仕入れてきます。遠方からの来客も多く、あまりの美味しさにマグロ丼を二杯食べるお客さんもいるのだとか。

これからの暑い季節は、ランチで一番人気

スタミナ丼 800円



の「スタミナ丼」もおすすめ。ふんだんに散りばめられた新鮮なネタと、山芋の軽い口当たりがなんとも絶妙で、どんな箸が進みます。そして、ご主人がおかみさんをはじめ、迎えて下さるお店の皆さんの温かいこと。美味しい料理から伝わる名店の優しさを、是非楽しんでください。



●誠心料理 浜源

横浜市神奈川区大口通二六一
電話：045(431)9492
営業時間：十一時～二十一時 木曜定休



パテ・ド・カンパーニュ



弊社代表江森がワインにあうレシピを紹介。「パテは時間はかかりますが実は簡単です。素人はコンビーフで安定感UP!」

●材料 豚ヒレブロック：400g、コンビーフ：100g、塩：小さじ1、こしょう：小さじ2/3、ハーブ（キャトルエビスなどお好みで）：小さじ1（なくても可）、ベーコン：5、6枚、玉ねぎみじん切り：大1/4個、とき卵：1個、にんにくみじん切り：1

カケ、白ワイン：大さじ1、ブランドー：大さじ1、ピスタチオ：30粒（殻をとっておく）、ローレル：3、4枚

●作り方

- ①豚ヒレはチョップバーなどで粗みに切る。
- ②オリブオイルで玉ねぎとにんにくをよく炒める。弱火。
- ③②にコンビーフ、とき卵、白ワイン、ブランドー、塩こしょう、ハーブを加え、ねばりが出るまで良く練り、冷蔵庫に1時間以上おく。
- ④テリヤキ型（ハウンドケーキ型）にベーコンを両端がはみ出すように重ねながら並べ、③を空気が入らないように押し付け、適当にピスタチオを埋めながら敷き詰める。
- ⑤全部を型に移したらベーコンでふたをしてローレルを乗せ、アルミホイルをかぶせる。
- ⑥70℃のお湯を張ったバットに⑤が半分ぐらい浸かるように入れ、180℃に熱したオーブンで90分焼く。
- ⑦焼き上がったら冷水にあてて急冷し、400gの重し（ペットボトルに水を入れての便利）を乗せて冷ます。粗熱がとれたら冷蔵庫に入れて24時間寝かす。
- ⑧食べる時は常温に戻し、好みの厚さにスライスし、ピクルスなどを添えていただく。



●この料理にはこのワイン!

デ・ボルトリティービーセミヨン・シャルドネ2011
原産国・オーストラリア 品種・セミヨン、シャルドネ
価格：700円前後
オーストラリアの白としては典型的なクセのない辛口ですが、セミヨン独特のしっかり感があるので、魚だけでなく肉料理にも良く合います。スーパードで簡単に手に入ります。

編集後記

今年の梅雨前線は日本列島に恵みをもたらすことなく、早々に退散してしまいました。通勤電車の中は一斉にクールビズになり、僕も遅れまいと慌てて半袖のYシャツを引っ張りだしました。七月前半からの猛暑攻撃はちよつと乱暴な感じがしますが、夏好きの威信にかけて、今年も目いっぱい夏を楽しんでやろうと意気込んでおります。楽しむためにはやはり元気でないと。皆様も体調管理にはくれぐれもお気を付け下さい。

夏と言えば、高校野球の季節ですね。甲子園を目指して、全国各都道府県で予選が繰り広げられます。選手たちの姿は、歳を重ねるに連れて緩くなってきた僕の涙腺を、更に緩くします。「僕が高校生の時、こんなに頑張っていたらどうか。」そんな思いも、僕の胸を熱くします。プロ野球が好きで毎週のように観戦に行っている僕ですが、また違った視線から野球を見ることができているのも高校野球の魅力です。高校球児から、今年も色んな思いをさせてもらおうと思っています。NHKの中継も大好きなのですが、甲子園で生の高校野球観戦。そんな夏休みもいいかも知れませんね。

さて、JOはお陰様で第4号の発行を迎え、感謝の気持ちでいっぱいです。弊社からの暑中お見舞いとして、皆様までお届けさせて頂きました。近頃は感想を頂くことも多くなり、これは編集長としてこの上ない喜びなのです。これからもJOに対する感想、叱咤激励を心よりお待ちしております。今回も発行にあたり、沢山の方のご協力を頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

協進印刷JO編集長

